別紙様式３

平成２３年度　博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

左半側空間無視患者の障害に対する気づきのプロセス

学位の種類：　修士（作業療法学）
人間健康科学研究科　博士前期課程 人間健康科学専攻　作業療法科学域
学修番号　10896610
氏　名：　山本　麻子
（指導教員名：　大嶋　伸雄　教授）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で，本様式１枚（Ａ４版）に収めること

半側空間無視（USN）患者は障害に気づきにくく自覚に乏しいとされているが，一方で障害に気づくと生活の中で工夫をして代償戦略を使い始めるとも言われている．本研究では USN 患者の精神･心理面に着目してインタビューを実施し，USN 患者が障害への気づきをもつプロセスを明らかにすると共に，不思議な言動をとる USN 患者を理解し，気づきを促す効果的なリハビリテーションの方向性を示すことを目的とした．

対象者はインタビューに答えることが可能な精神・身体機能を有する左 USN 患者とし，同意の得られた患者 6 名に対し半構造化インタビューを実施した．USN による問題を予期し代償的手段を使用し始めた 2 名を「気づきが十分な患者」，それ以外の 4 名を「気づきが不十分な患者」として M-GTA に準拠した方法で分析を行った．

その結果，気づきが十分な患者の語りからは〈明らかな内的経験の変化〉〈得意な右側の選択〉〈患者役割を演じる〉〈左 USN の重大さの認識〉〈独自の左 USN 対策〉〈習慣としての左 USN 対策〉〈対応できない新しい場面での左 USN〉の 7 カテゴリーが，気づきが不十分な患者の語りからは〈内的経験に欠ける偏った問題意識〉〈自分への疑問と障害以外での解釈〉〈患者役割を演じる〉〈ぼんやりとした左 USN への気づき〉〈左 USN の否認〉〈漠然とした左 USN 対策〉の 6 カテゴリーが生成された．Tham らの先行研究と比較すると，気づきが十分な患者のプロセスは先行研究とおおむね一致していたが，気づきが不十分な患者のプロセスは初期の段階から異なっていた．

気づきが十分な患者と不十分な患者の違いとして①注意の容量の違い，②活動経験の質の違い，③内的経験の有無，の 3 つの要素が考えられ，それらの相互作用が予想された．

USN への気づきを促すには適切な課題設定と同意を得た介入が必要だと考えられた．適切な課題設定としては難易度が適切であり，本人にとって意味のある課題であることが重要だと考えられ，左 USN 対策を行うことでその課題が上手くできるかもしれないという期待感を抱けることが左 USN 対策を推進すると考えられた．左への介入がセラピストの意図とは逆に患者の恐怖心や嫌悪感につながっていたことを示す語りも見られたことから，これまで USN に対して当たり前に行ってきた介入を患者がどのように感じているのか改めて問い直す必要があると考えられた．